

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇3日25日～

先週、日銀は今までの金融緩和から一步出口に踏み出しました。

マイナス金利解除、ETF(上場投資信託)やJ-REIT(不動産投資信託)の買い入れ終了、商業用紙幣(CP)と社債の買い入れは段階的に減額し、1年後をめどに終了。

さらに、2016年に導入したYCC(長短金利操作)の廃止などを発表しました。

アベノミクスで始めた大規模な金融緩和政策に大きな変更が起きました。

しかし、国債の買い入れなどは継続するという事なので、金融緩和は続いているという見方もできます。

海外勢も日本が次々に利上げをするとは思っていないようで、マーケットは円安、日本株高で反応しました。緩和的な状況がまだしばらく続くとの判断からでしょう。

ドル/円も昨年、一昨年の高値の151.9円あたりのレートまで近づきました。

介入警戒感もありますが152円を突破した場合、円安がさらに進む可能性があります。

日経平均も4万1000円と高値更新の動きが続いています。

米国株が強いことも株高には追い風になっています。S&P500が史上最高値更新、ナスダックも2021年高値まで値を戻してきました。

NYダウも4万ドル目前まで上昇してきました。どこで天井をつけるのかわかりませんが高値圏では乱高下が起こりやすいため株価の急変にも気をつけたいです。

そして、米国FOMCの金利見通しでは、今年3回の利下げはそのまま据え置かれました。

一部では2回の利下げになるのではないかという予想もあっただけに、米国株はFOMC後、大きく上昇しました。

欧州では、スイスが突然の利下げ発表をしたことで、ユーロ圏も4月に利下げに動くのではという予想が強まっています。

そうすると、欧州通貨安からドルが買われやすくなる状況になります。

ということで、円やユーロに対してドル高が進みやすい状態になっています。

29日の金曜は、欧米など多くの国がGood Friday(聖金曜日:復活祭前の金曜日)で休場となります。日本も年度末ということで、リスク管理は慎重に行っていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週のドル/円は、151円台後半まで円安が進みました。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

2022年、2023年の高値の151.9円とほぼ同水準まで上昇してきましたが152円のせになるかどうか注目です。

日本からは円安けん制発言も出てきていますが、日銀が緩和的な政策を今後も継続することや日米の金利差が開いた状態が当分続くということから円安の流れが続く可能性があります。

152円を超えるとテクニカル的には1990年の160円あたりが視野に入ってくるかもしれません。まずは、150-152円のどちらにブレイクするかに注目したいです。

150円を割り込むと2週間ほど続いている上昇トレンドが崩れてくるため円高方向へ動きやすくなります。

下値は148円台、147円台にもサポートがあるので、下げ止まれば買いを検討したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は先週の後半下げているペアも多く、週明けも下げが続くかどうかを見ていくこととなります。

先週のFOMC後にドル高が進んでいることが原因です。

ドル>その他外貨というような強弱関係になってくるとドル/円ほどクロス円は上がりにくくなります。円安と考えるのではなく、ドル高と考えることが重要です。

また、米国株も加熱感が出てきているため株価の急落からクロス円が下がるリスクも警戒しておきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、3月東京都区部消費者物価指数、2月鉱工業生産などがあります。

米国では2月新築住宅販売件数、2月耐久財受注、1月ケース・シラー米住宅価格指数、3月リッチモンド連銀製造業指数、3月消費者信頼感指数、10-12月期GDP(確定値)、前週分新規失業保険申請件数、3月シカゴ購買部協会景気指数、3月ミシガン大学消費者信頼感指数、2月住宅販売保留指数、2月個人消費支出(PCEデフレーター)などが発表されます。

欧州ではユーロ圏で3月消費者信頼感指数、ドイツで2月小売売上高などがあります。

ほかには、南アフリカで政策金利、英国で10-12月期GDP(改定値)、カナダで1月GDPの発表などがあります。